

令和4,5年度 関東中央病院 医師労働時間短縮計画

計画期間

令和4年7月～令和6年3月末

対象医師

本院を主たる勤務先とする全ての医師

1. 労働時間と組織管理（共通記載事項）

(1) 労働時間数

医師 115 名

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	約352時間30分	約350時間00分	約350時間00分
最長	1030時間00分	960時間00分	960時間00分
960時間超～1,860時間の人数・割合	3人・2.6%	0人・0.0%	0人・0.0%
1,860時間超の人数・割合	0人・0.0%	0人・0.0%	0人・0.0%

(2) 労務管理・健康管理

【労働時間管理方法】

前年度の取組実績	出勤簿による自己申告（院内における労働時間数）に加え、兼業申請の提出の徹底をはかり、院外での労働時間数の把握に務めた。
当年度の取組目標	ビーコンによる出退勤管理システムを医師に導入する
計画期間中の取組目標	当年度に導入する出退勤管理システムが、実効的なものとなるよう、繰り返し周知等を行う。

【宿日直許可の有無を踏まえた時間管理】

前年度の取組実績	特になし（許可は得ていない）
当年度の取組目標	宿日直許可の取得は困難なため、当該時間を適正に労働時間として把握することに務める
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む

【医師の研鑽の労働時間該当性を明確化するための手続等】

前年度の取組実績	特になし
当年度の取組目標	労働と自己研鑽の扱いを一覧として明示した資料を作成し、医師に対し周知する。
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む

【労使の話し合い、36協定の締結】

前年度の実績	協議の場として、労働安全衛生委員会（委員の半数以上が労働組合員で構成）を月1回に開催する。36協定については、選挙により選出された労働者の過半数代表者と協議のうえ、締結する。
当年度の実績	上記事項に取り組む
計画期間中の実績	同上

【衛生委員会、産業医等の活用、面接指導の実施体制】

前年度の実績	労働安全衛生委員会を月1回開催する。健康診断を年1回実施する。長時間労働となっている者に対し、産業医による面談を実施する。
当年度の実績	上記事項に取り組む
計画期間中の実績	上記事項に取り組む

【追加的健康確保措置の実施】

前年度の実績	—
当年度の実績	—
計画期間中の実績	—

(3) 意識革命・啓発

前年度の実績	特になし
当年度の実績	医局会などにおいて、専門業者による、医師の働き方改革の制度についてのレクチャーを実施し、意識付けを行う。
計画期間中の実績	上記事項に取り組む

(4) 策定プロセス

各職種（医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、臨床工学技師、事務職員）から各代表者1名及び病院長が参画する労働安全衛生委員会においてこの計画の検討を行い策定した。また、策定後には当該計画を当院ホームページに公開している。

2. 労働時間短縮に向けた取組（項目ごとに任意の取組を記載）

(1) タスク・シフト／シェア

【看護師】

計画策定時点での取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師による静脈点滴注射ルート確保の実施 ・救急外来における救急救命士の育成・活用 ・特定行為研修修了者2名育成
計画期間中の取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特定行為を含む認定看護師の育成継続 ・特定認定看護師及び専門看護師の特定行為実施

【医師事務作業補助者】

計画策定時点での取組実績	医師事務作業補助者16名体制で医師の具体的指示の下、診療録・各種書類等の代行入力を行う
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む

(2) 医師の業務の見直し

計画策定時点での取組実績	特になし（診療科ごとの宿日直体制）
計画期間中の取組目標	診療科毎の体制ではなく、交替で1日当直当たり2人体制とし、日当直しない診療科はオンコール体制とする

(3) その他の勤務環境改善

計画策定時点での取組実績	子育て世代の医師が働きやすい環境を整備（時差出勤、宿当直の免除、院内保育の整備等）
計画期間中の取組目標	勤怠管理システムの導入

(4) 副業・兼業を行う医師の労働時間の管理

計画策定時点での取組実績	特になし
計画期間中の取組目標	副業・兼業先へ労働時間短縮の協力要請を行い、勤務シフトの調整を行う

(5) C-1水準を適用する臨床研修医及び専攻医の研修の効率化

計画策定時点での取組実績	特になし
計画期間中の取組目標	特になし